

## 医薬品タイムリー情報



# 新規採用 配合溶解型インスリン製剤 ライゾデグ配合注フレックスタッチ



ライゾデグ配合注は、ノボラピッド30ミックスと同様の混合型インスリンで、1本のペンに持効型溶解インスリンと超速効型インスリンを配合した溶解インスリンアナログ製剤です。

大きな特徴として、ライゾデグ配合注は従来の混合型インスリン(ノボラピッド30ミックスなど)とは異なり、**懸濁操作が不要**なため採用切替をしました。

### 従来採用品との比較



分類	製剤名 製剤写真	作用動態モデル 0 2 4 6 8 10 12 14 16 18 20 22 24	作用発現 時間	ピーク 時間	持続 時間	開封後 使用期限	性状
混合	 ノボラピッド30ミックス注 フレックスペン		10~20 分	1~4 時間	約 24 時間	28 日	白色の 懸濁液

○一度の注射で追加分泌と基礎分泌の両方を補う

○ノボラピッド30ミックスは「超速効型と中間型」を混合

○混ざりにくいので注射前の混和が必要

## 採用変更

分類	製剤名 製剤写真	作用動態モデル 0 2 4 6 8 10 12 14 16 18 20 22 24	作用発現 時間	ピーク 時間	持続 時間	開封後 使用期限	性状
配合 溶解	 ライゾデグ配合注 フレックスタッチ		10~20 分	1~3 時間	42時間超 反復投与時	28 日	無色 澄明

○一度の注射で追加分泌と基礎分泌の両方を補う

○超速効型インスリン(ノボラピッド注の有効成分)30%と

持効型溶解インスリン(トレシーバ注の有効成分)70%を配合

○注射前の混和は不要

次のページに 【 フレックスタッチのメーカー説明資料 】

# フレックスタッチとフレックスペンの違い

現在当院ではフレックスタッチの製剤とフレックスペンの製剤を両方採用しています。操作にいくつかの違いがありますので、下記資料を参照し、注意して使用して下さい。

## フレックスタッチ®とフレックスペン®の違い

フレックスペン®を使用されている方へ

監修：新潟薬科大学 薬学部 教授 朝倉 俊成

### 単位合わせがしやすい

フレックスタッチ®



フレックスペン®



- 見やすい投与表示
- 単位設定表示が白地に黒文字
- 単位増減時の異なるタイアル音、クリック感で単位合わせをサポート
- カートリッジホルダー-助材が無くなくなった
- 空打ちの際の動いなく、確認しやすい

### 混ぜなくて良い※



※懸濁操作を必要とする製剤から、インスリン®配合注 フレックスタッチ®に変更する場合は

### 打ちやすい

フレックスタッチ®



フレックスペン®



- 注入ボタンが伸びない
- 注入圧が軽い
- 最大投与量がフレックスタッチ®では60単位、フレックスタッチ®では80単位
- 太く、円錐形、人間工学に基づき握りやすさ

### 投与終了時に「カチッ」



※懸濁操作を必要とする製剤から、インスリン®配合注 フレックスタッチ®に変更する場合は

- その他
- 転がり防止
  - 万一、ゴム栓が膨らんでも針をつければ再使用が可能

※詳細は裏面をご覧ください。

※添付資料としてプレフィルド型のインスリン製剤一覧表を添付しております。合わせて確認をお願いします。